

水城跡のつくり（土木調査）

大野城市教育委員会



写真1

みずきあと
水城跡は、日本の古い歴史書である『日本書紀』の天智天皇3（西暦664）年の条に「於筑紫、築大堤貯水、名曰水城」という記述のある史跡です。

現在は大きな土塁（堤）が見えるだけで、いろいろな調査の結果、西暦663年の「白村江の戦い」に敗れた倭政権が博多側から攻めてくる敵軍を防ぐために造った防衛施設であることがわかっています。写真1は水城跡を東側の丘陵から撮影したものです。造られてから約1350年経った今も堂々とした姿をしています



写真2

大野城市では、この貴重な文化遺産である水城跡を守り・伝え・活かすために各種の基礎調査を行っています。前回は、樹木調査による植生の状況をご報告しましたが（「解説シート考古No.53 水城跡の植生（樹木調査）」）今回は平成16年度に行った土木調査の結果についてお知らせします。

写真2は、ボーリングで水城跡の土を採取している様子です。このようにして採取した土を詳しく分析し、水城跡全体の基盤層、土塁や濠の構造について調べました。

調査の結果、おおよそ次のようなことがわかりました。

- 水城跡全体の基盤層は、風化した花崗岩である。
- 土塁は上成土塁と下成土塁に分かれ、上成土塁には版築工法（粘土と砂を交互に突き固めて盛り上げる工法）、下成土塁には敷粗朶工法（樹木の枝葉を敷き詰めて基礎の滑りを押さえる工法）が使われていた。
- 上成土塁の土取場は、本市の下大利から上大利にかけての丘陵地、また太宰府市の吉松から向佐野にかけての丘陵地である可能性が高い。
- 濠は、発掘調査では見つかっているが、今回の調査でははっきりと確認できなかった。

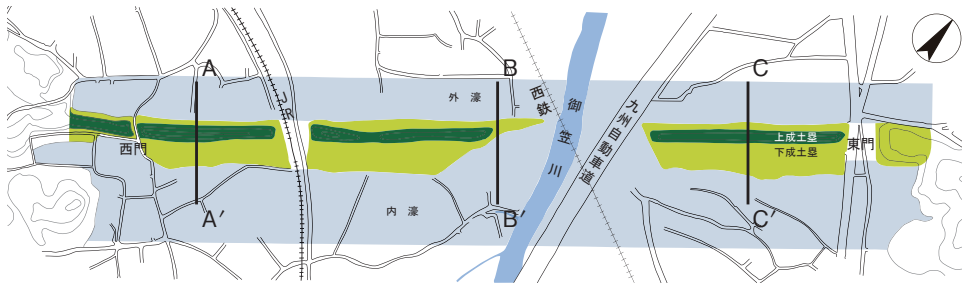


図1 横断面設定位置図

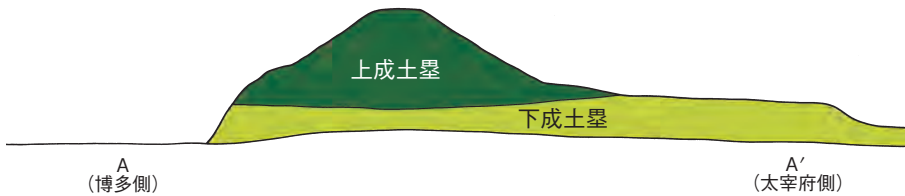


図2 A-A' 横断面模式図

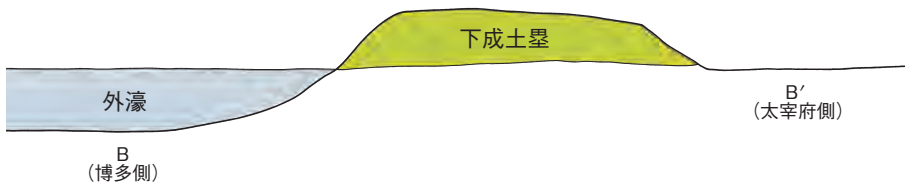


図3 B-B' 横断面模式図

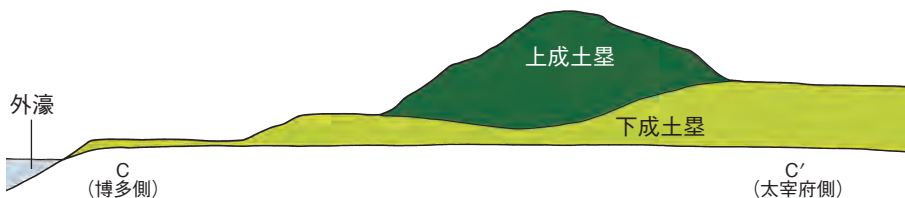


図4 C-C' 横断面模式図

今回の調査に、これまでの発掘調査などの結果も加味して、図2～図4に水城跡の断面模式図を示しました。水城跡についてはまだまだ分からないことが数多くあり、今後も各種調査を積み重ねていくことが必要です。

(H24.03)